

2019年度 社会学コロキウム：
特色ある学部教育：社会調査実習（社会学）

＜2019年度 第一回社会学コロキウム＞

10月4日（金）15：00-18：00
中央大学多摩キャンパス2号館5階2505教室

「ジェンダーの視点から「人間の安全保障」を調査すること」

土野瑞穂先生 (Tsuchino, Mizuho)

明星大学教育学部

＜講演概要＞

これまで「人間の安全保障」が議論されるとき、主に開発途上国での調査データをもとに、紛争や大規模な人権侵害等が起こっている

「開発途上国の問題」として語られることが多かった。しかしジェンダーの視点から捉えた場合、「人間の安全保障」は開発途上国あるいは戦時に限った課題ではないことが浮かび上がる。本講義では、人々の安全・安寧を脅かす要因の一つにジェンダーが深くかかわっていることを示す調査データをもとに、ジェンダーの視点から「人間の安全保障」の再考を試みたい。

＜事前に読んでおくと良い参考文献＞

- (1) 長 有紀枝2012『入門 人間の安全保障-恐怖と欠乏からの自由を求めて』中公新書 のうちの以下の3章

第3章「人間の安全保障」概念の形成と発展 (pp.83-109)

第4章「人間の安全保障」の担い手 (pp.110-136)

第5章「恐怖からの自由」と「欠乏からの自由」 (pp.137-172)

※当日の講演では「人間の安全保障」の内容についてはさほど深くは言及しないが、念のため入門書として紹介する。

- (2) 岡野八代2015『戦争に抗する-ケアの倫理と平和の構想』岩波書店

第9章「安全保障」を問い直す (pp.192-216)

- (3) 田中かず子編『アジアから見るジェンダー』ICU21世界COEシリーズ第7巻、風行社、
秋林こずえ2008「ジェンダーと人間の安全保障-アジアから」 (pp.55-69) .

※リーディングの負担が多いようなら（2）と（3）の文献だけでもよい

＜2019年度 第二回社会学コロキウム＞

11月28日（木）13：30-16：30

中央大学多摩キャンパス2号館5階2565教室

「「社会」を理論的に語れたのはなぜか—社会調査の技法との対比を通じて」

流王貴義先生 (Ryuo, Takayoshi)

東京女子大学現代教養学部

＜講演概要＞

限定されたデータを素材として、それを越えた「社会」に接近しようとする。サンプリングの手法やケース選択の戦略性といった社会調査の技法は、このような方向性があるべき社会学的な研究として堅持しようとする際の主要な拠り所である。ではこのような研究戦略において理論はどのように位置づけられてきたのか。本講演では、社会学における理論の位置づけの吟味を通じて、学史・理論研究のとりうる方向性の1つを提示したい。

＜事前に読んでおくと良い参考文献＞

岸政彦ほか，2018，『社会学はどこから来てどこへ行くのか』有斐閣の第6章と第7章

＜2019年度 第三回社会学コロキウム＞

2020年1月10日（金）13：30-16：30

会場 未定

「社会調査から見る「市民社会」（仮）」

仁平典宏先生 (NIHEI, Norihiro)

東京大学大学院教育学研究科

＜講演概要（仮）＞

近年、NPO・NGOの活動やボランティア活動の活発化など背景に、市場や国家が生み出す問題を改善・変革する領域として、「市民社会」に対する期待が高まっている。それは往々にして理念的に捉えられがちだが、その実相に迫るためには、計量社会調査を通じた把握も重要である。日本の「市民社会」は、階層構造、意識構造、資源調達構造、言説・表象等において、どのような特徴を持ち、問題に直面しているのか、複数の社会調査を通じて検討していく。

＜事前に読んでおくと良い参考文献（仮）＞

- （1）仁平典宏、2019年、「サードセクター組織のビジネスライク化と雇用」（後房雄・坂本治也編『現代日本の市民社会——サードセクター調査による実証分析』法律文化社 pp.184-199）
- （2）三谷はるよ、2014年、「「市民活動参加者の脱階層化」命題の検証——1995年と2010年の全国調査データによる時点間比較分析」『社会学評論』65（1）

以上